

観光立国の実現は、地方(地域)から

観光立国 飛躍へのアクションを

新年号・特別鼎談——観光立国の課題と展望

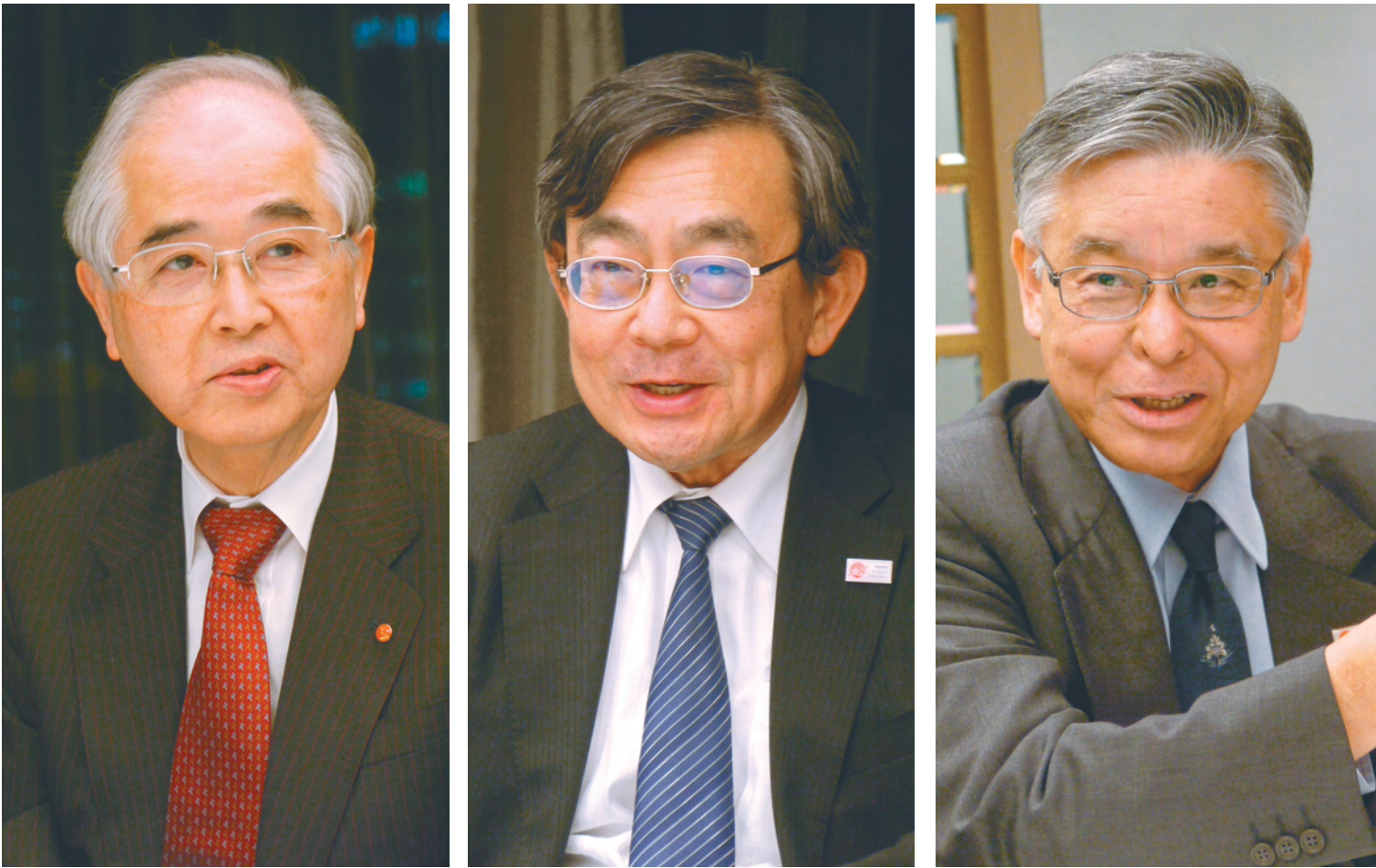
2014年はどのような年になるのか。観光庁の久保成人長官、日本観光振興協会の山口範雄会長(味の素会長)、日本政府観光局(JNTO)の松山良一理事長の3氏に、現状や課題を踏まえながら観光業界の動きを展望していただいた。(司会＝編集長・内井高弘)

まずは、久保長官に2013年のトピックスを挙げてもらいたい。

久保 観光庁として一番大きかったのは、総理(安倍首相)が主宰する観光立国推進閣僚会議が6月に「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を決定したこと。これは13年だけでなく、今後

の政府の方針や観光政策の指針になっていく。インバウンド

政府・行動計画を執行へ 久保 国内旅行、話題が後押しし 山口



日本観光振興協会会長 山口 範雄氏

観光庁長官 久保 成人氏

日本政府観光局(JNTO)理事長 松山 良一氏

ドに関しては、1千万人を達成し、その先は2千万人の高みを目指す目標を掲げている。目標達成への施策の重要性も定められた。

東京五輪決定「追い風」 松山

二つ目は、9月20日の東京五輪開催が決まったこと。これはインバウンドや観光地づくりの追い風になる。

山口会長から見た13年の観光の状況は、山口 国内旅行は、主要旅行業の取扱実績をみると、2月から連続で前年同月に対してプラスとなり、全体的には好調だった。いろいろ必要因があるが、観光につながるような話題が多かったことが理由の一つ。富士山の世界文化遺産登録、東北観光にプラスになったNHKのドラマ「あまちゃん」や「八重の桜」、伊勢神宮と出雲大社の選定、東京メトロ丸の内線の30周年、東京駅の改装など。

松山 本にはこれまでなかった。山口 一方のインバウンドに関しては、日本はGDP世界3位の国でありながら取り組みが遅れていると言われてきたが、観光立国アクションプランができたことで、市場別の状況はさまざまだが、ASEANからの訪日旅行は、他の経済分野の動きと同様に伸びている。長官がおっしゃったように政府が素早くビザの緩和に踏み切ったことが効果的だった。加えて、これからは東京オリンピックに関係した盛り上がりも期待できる。また、私は食品産業に携わっているが、和食が世界無形文化遺産に登録されたことも素晴らしいニュースだ。

久保 13年の動きで注目されるのは、訪日外国人旅行者数が目標の1千万人に届くかどうか。この開業の開催時点で は予測が難しいが、久保 1千万人の達成に 関しては、いろいろな企業、団体に協力を要し、オリ ジャンパンの総力戦で取り組 んだ。良い発表ができてと期 待している。

松山 2千万人は現実離 れた数字ではない。日本観 光のブランド力というのは、 欧州の観光大国と争うべく いう評価がある。日本はいつ か、「いつか」では駄目だ。 プロモーションを受け入れ態 勢を強化し、「今行こう」と 変えないといけない。東京オ リンピックの開催決定により 2千万人へのスタートライン に立った感がある。課題を一 つ一つ解決しながら、旅行者 数を増やしていくと同時に質 の向上が必要だ。訪日客に満 足してもらう、受け入れる関 係事業者のしっかかりと助け もらう。この両方の質の向上 を20年までにしっかりとや らないといけない。

松山 2千万人は現実離 れた数字ではない。日本観 光のブランド力というのは、 欧州の観光大国と争うべく いう評価がある。日本はいつ か、「いつか」では駄目だ。 プロモーションを受け入れ態 勢を強化し、「今行こう」と 変えないといけない。東京オ リンピックの開催決定により 2千万人へのスタートライン に立った感がある。課題を一 つ一つ解決しながら、旅行者 数を増やしていくと同時に質 の向上が必要だ。訪日客に満 足してもらう、受け入れる関 係事業者のしっかかりと助け もらう。この両方の質の向上 を20年までにしっかりとや らないといけない。

山口 クルーズに関しては、 受け入れ態勢は不十分だ。 10万トンを超える大型船が横浜 ベイブリッジをくぐれず、そ の手前に接岸せざるを得ない という話もあるように埠頭 や旅客ターミナルの整備、CIQ(出入国管理)の簡 素化といった課題もある。クル ーズ船が寄港すれば、数千 人単位の消費があるから、地 域にとって経済効果は大き い。ハード、ソフト両面の整 備が求められている。

山口 クルーズに関しては、 受け入れ態勢は不十分だ。 10万トンを超える大型船が横浜 ベイブリッジをくぐれず、そ の手前に接岸せざるを得ない という話もあるように埠頭 や旅客ターミナルの整備、CIQ(出入国管理)の簡 素化といった課題もある。クル ーズ船が寄港すれば、数千 人単位の消費があるから、地 域にとって経済効果は大き い。ハード、ソフト両面の整 備が求められている。

松山 今後は不自由さも旅 行の楽しみという考え方があ ったりしている部分がある。 1千万人なら何とかなって も、2千万人となるとどう いかない。

MICEへの機運上昇 松山 外客200万人に向け改革 久保

産業・地域間の連携促進 山口

久保 観光庁として一番大きかったのは、総理(安倍首相)が主宰する観光立国推進閣僚会議が6月に「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を決定したこと。これは13年だけでなく、今後

の政府の方針や観光政策の指針になっていく。インバウンド

ドに関しては、1千万人を達成し、その先は2千万人の高みを目指す目標を掲げている。目標達成への施策の重要性も定められた。

二つ目は、9月20日の東京五輪開催が決まったこと。これはインバウンドや観光地づくりの追い風になる。

山口会長から見た13年の観光の状況は、山口 国内旅行は、主要旅行業の取扱実績をみると、2月から連続で前年同月に対してプラスとなり、全体的には好調だった。いろいろ必要因があるが、観光につながるような話題が多かったことが理由の一つ。富士山の世界文化遺産登録、東北観光にプラスになったNHKのドラマ「あまちゃん」や「八重の桜」、伊勢神宮と出雲大社の選定、東京メトロ丸の内線の30周年、東京駅の改装など。

松山 本にはこれまでなかった。山口 一方のインバウンドに関しては、日本はGDP世界3位の国でありながら取り組みが遅れていると言われてきたが、観光立国アクションプランができたことで、市場別の状況はさまざまだが、ASEANからの訪日旅行は、他の経済分野の動きと同様に伸びている。長官がおっしゃったように政府が素早くビザの緩和に踏み切ったことが効果的だった。加えて、これからは東京オリンピックに関係した盛り上がりも期待できる。また、私は食品産業に携わっているが、和食が世界無形文化遺産に登録されたことも素晴らしいニュースだ。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

近畿日本ツーリストは、旅をテーマとして、世界中に感動・笑顔・信頼の「物語」を創出していきます。本年も、笑顔あふれる社会の実現にチャレンジしていく近畿日本ツーリストを、どうぞよろしくお願いいたします。

